

都市再生整備計画(第6回変更)

しんおおむらえきしゅうへん
新大村駅周辺地区

ながさき おおむらし
長崎県 大村市

令和2年8月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	長崎県	市町村名	大村市	地区名	新大村駅周辺地区	面積	24.8	ha
-------	-----	------	-----	-----	----------	----	------	----

計画期間	平成 28 年度 ~ 令和 5 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 令和 2 年度
------	--------------------	------	--------------------

目標

- 大目標 世界へ、そして未来につながる・緑と歴史の大舞台 新大村
- 目標1: 花と緑に囲まれた駅づくり・拠点づくり
- 目標2: 若者が集い・躍動感のある拠点づくり
- 目標3: 便利で魅力的な新しい生活を提案する拠点づくり

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 本市は、緑の多良山系と波静かな大村湾に囲まれた自然豊かな環境に加え、長崎空港や長崎自動車道大村ICなどの高速交通アクセスの利便性から、これまで順調に人口が増加し、県央の中核都市として着実に発展してきている。また、九州新幹線西九州ルートの開業に向けた「新大村駅(仮称)」の駅周辺整備をはじめ、「長崎県立・大村市立一体型図書館(仮称)」の建設、「新工業団地」の造成など様々なプロジェクトが進行しており、観光やビジネスにおける県内有数の交流拠点として、今後更なる発展が期待されている。
 一方で、全国的な人口減少や少子高齢化の進展によって、存続が危ぶまれる地方都市が増えるなか、本市では、その対策として「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進めるため、市街地の主要な拠点に病院や商店などの都市機能と、その周りに居住を適正に誘導し、公共交通ネットワークを活かして、将来にわたって市民の誰もが便利で安心して住み続けられるまちづくりを図る。

まちづくりの経緯及び現況

- ・大村市は、長崎県本土のほぼ中央に位置し、国際路線を持つ長崎空港や九州横断自動車道大村インターチェンジがあり、さらには、現在、九州新幹線西九州ルートの開業を令和4年に控えており、高速交通体系の結節機能を最大限に活かし、長崎県の中核都市として着実な発展を続けている。
- ・九州新幹線西九州ルート開業に伴う新大村駅周辺地区は、平成26年8月に「大村市新幹線新大村駅(仮称)周辺地域まちづくり計画」を策定し、空港・インターチェンジと新幹線駅が至近距離にあるという全国的にみても恵まれた広域交通利便性を交流創出に活用した整備方針が位置づけられている。
- ・そういったなかで、現状では新大村駅の東側に県立ろう学校、西側には住宅が立地しており、計画的かつ戦略的な土地利用転換と都市機能の誘導が求められている。

課題

- 新拠点形成に向けた課題を以下に整理する。
- 1) 本市の玄関口にふさわしい大村らしい魅力を持った空間づくりと活動の場の確保
 - 2) 広域交通結節点を活用した本市の定住・企業誘致等の拠点にふさわしい都市機能の誘導
 - 3) 空港・新幹線新駅・インターチェンジのアクセス向上と拠点地区にふさわしい都市基盤の確保

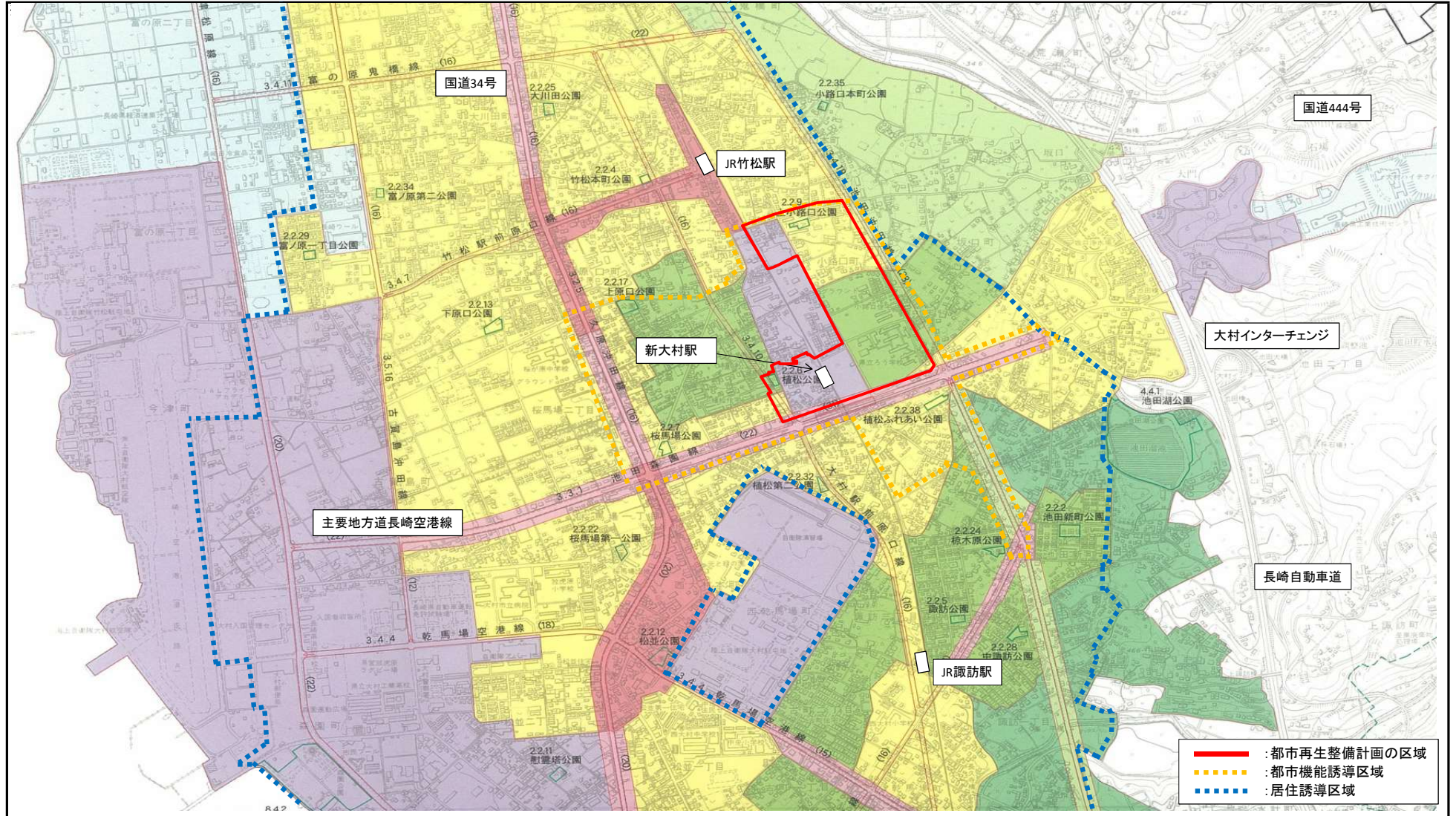
将来ビジョン(中長期)

- ・大村市総合計画では、「花と歴史につつまれた 未来へ羽ばたく 産業・交流都市」を目指しており、新大村駅周辺地区は、新たな交流拠点として位置づけられており、空港、新幹線新駅、インターチェンジなどの交通結節点へのアクセス向上を図り、機能性が高い魅力あるまちづくりを進めることを基本戦略としている。
- ・大村市都市計画マスタープランにおいて、新大村駅周辺地区は、本市の骨格を形成する「都市軸」の中央交差点に位置し、南北の市街地の一体性確保と東西の広域的交通ネットワーク形成の中心的役割を果たす地区と位置づけられており、以下のまちづくりが求められている。
- 交通結節点としての機能に加え、来訪者の利便性向上に向けた情報発信機能や人々の賑わい・交流を創出するため、周辺の公共用地等を含め、市街地環境のあり方について検討する。
- 空港や市内各拠点との連絡性向上を図るため、その他公共交通との連携や道路の配置など、交通体系のあり方を検討する。また、駅前広場や駐車場など、交通結節点機能の強化を推進する。
- 新幹線新駅を起点に、人や地域の連携、賑わいの創出を図るため、市民・事業者等および市による協働のまちづくりを展開する。

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・1)若者が集い・躍動感のある拠点づくり</p> <p>新大村駅周辺の市・県有地を含む地区を、土地区画整理事業により整備を行うことで、周辺住民の利便性及び生活環境の向上を図るとともに、計画的かつ戦略的に、商業、業務などの民間活力を活かした都市機能の立地を誘導し、若者が集い・躍動感のある新しい都市拠点を形成する。</p>	<p>方針に合致する主要な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業(関連事業) ・都市再生土地区画整理事業(関連事業) ・立地適正化計画策定(関連事業)
<p>・2)便利で魅力的な新しい生活を提案する拠点づくり</p> <p>周辺住民や市民に対し新しい生活を提案するため、東西を繋ぐ自由通路や駐輪場、アクセス道路などの新たな都市基盤の整備を行うとともに、駅舎と一体的なギャラリーやサインなどの整備により、大村市の玄関口としてふさわしい便利で魅力的な駅前空間を確保する。</p>	<p>(立地適正化計画P107第7章2(1)「都市機能誘導区域における都市機能の維持・増進に関する施策」関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園(植松公園) ・地域生活基盤施設(自由通路) ・下水道(公共下水道事業(汚水)) ・道路(都市計画道路 坂口植松線) ・高質空間形成施設(駅前広場のグレードアップ) <p>(立地適正化計画P119第7章5「立地適正化計画の見直し」関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業効果分析調査 <p>5年ごとに立地適正化計画の内容についての評価を行う中で、目標の達成状況や施策の実施状況等を把握する必要があるため、都市再生整備計画の事業効果を分析調査した上で必要に応じた立地適正化計画の見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州新幹線(西九州ルート)(関連事業) ・地域公共交通計画策定事業(関連事業)
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民等の参画による施設の効果的活用の体制づくり 中心拠点誘導施設や美化活動等について、市民や関係団体等の参加・協力により実施していくための体制づくりを図る。(アダプト制度・花いっぱい運動・イベント開催など) ○交付期間中の計画管理について 交付期間中において、各種事業を円滑に進め、目標達成のために確実な成果を上げるため、事業の進捗や指標の達成状況等について確認し、適宜、各事業の取り組みについて必要な見直しを図る。 <p>【官民連携事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市有地および県有地の有効活用を図り、民間施設の立地を促進する。 	

新大村駅周辺地区(長崎県大村市)

面積	24.8 ha	区域	大村市 植松1丁目、植松三丁目、小路口町、池田2丁目、坂口町の各一部
----	---------	----	------------------------------------



新大村駅周辺地区(長崎県大村市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	■大目標 世界へ、そして未来につながる・緑と歴史の大舞台 新大村 目標1:花と緑に囲まれた駅づくり・拠点づくり 目標2:若者が集い・躍動感のある拠点づくり 目標3:便利で魅力的な新しい生活を提案する拠点づくり	代表的な指標	西大村地区住民の市民参加型まちづくり推進に対する満足度	点	2.61	(H27年度)	→	2.95	(R2年度)
	市・県有地の民間利用面積割合		(%)	0	(H27年度)	→	50	(R2年度)	
	西大村地区住民の公共施設に対する満足度		点	2.87	(H27年度)	→	2.99	(R2年度)	

